



2020年1月から新館設計に伴う定例会議を、毎週1回のペースで開催しています。その会議でさまざまな内容が検討され、配置に関しても精査・検討を行ってきました。

①2020年に新館の基本設計が完了しましたのでここに公開します。

②老朽化した理学環境の移転と、大教室や研究所の設置を通じICUの文理融合をさらに深化させます。

全体コンセプト

本館北側のクアドラングルの再構成
新館と既存建物を「有機的に結びつける」
クアドラングルの再構成

文理融合となった交流空間の創出
文理の垣根を超えた、様々な人々が行き交う交流の場
多様な用途を生み出す設え

オープンでフレキシブルな実験・研究
スペースの創出

1. 平面図（基本設計より）

平面図

2. キャンパス全体から見た動線計画（基本設計より）

屋内外の動線計画と駐輪場

3. 内装計画（基本設計より）

Hub Central(仮称)

教員・学生の対話や文理融合を含む、リベラルアーツ教育の理念の実現を促進する機能・施設として「Hub Central(仮称)」を設置する。具体的には本館と新館の動線上に、学生と教員・文系授業と理系授業・授業時間と休憩時間などの「ハブ」となるスペースを設ける。

Hub Central

吹き抜けイメージ

内装計画: ハブセントラル
ダクトを表にした機能的な天井 / 暖かみのある木の壁

内装イメージ

床: モルタル
内壁: 木材 (クリア塗装)
天井: 白塗装

内装計画: 吹き抜け
木に包まれた明るく温もりのある吹き抜け

内装イメージ

床: モルタル
壁、天井: 木材 (クリア塗装)
壁、天井: 白塗装

4. 外観デザイン(基本設計より)

アプローチ
本館と理学館をつなぐ庇

建物をつなぐ庇

本館、理学館をつなぐ木に包まれた温もりがある庇を計画する。学生が雨に濡れずに本館、新館、理学館を横断でき、学生のたまり場としての空間を計画する。

ミニクアドラングル
木に囲まれた温もりのあるミニクアドラングル

ミニクアドラングル

木に囲まれた温もりのあるクアドラングル

クアドラングル、新館、本館の間にはイベントや、学生のたまり場となるミニクアドラングルを設ける。

新館は木の外装を用いることでこのミニクアドラングルを明るく、温かみのある空間とする。このミニクアドラングルは1階のHub Centralおよび300人教室と開口部を通じてつながり、一体的に利用可能な計画とする。

エントランス
学生の交流を促すたまり場としての階段

エントランス

広場・アイストッとして階段

おらからステップは交流を促す集いの階段で、本館南側の芝生広場からのアイストッにもなります。

Option1 4階まで柱

南側外装計画

ゆとりあるピロティ空間

5.植栽・ランドスケープ計画(※こちらの内容は、素案であり決定したものではありません。)

ランドスケープ・コンセプト

13.1 ランドスケープ・コンセプト
性質の異なる2つのクアドラングルをつなぐ。新館のオープンスペース

配置計画

13.2 配置計画

植栽計画

13.3 植栽計画

樹木計画(※現在計画中です)

工事に影響のある樹木は伐採しますが、記念樹はなるべくその場に保全し、より健全に育つように周囲の樹木を整備します。本工事範囲にかかる記念樹は移植します。

6.教室計画

新館に300人教室(特大大教室)1室、180人教室(大教室)4室を新設する。特大大教室については、現時点で大教室の収容人数を超過しこれを必要とする講義があること、現在のN-220には教室の勾配、通路の配置などに問題があることから、設置することとした。なお、大教室、特大大教室は、教員と学生の距離を短くするため、横長の座席レイアウトとする。(皆申より抜粋)

なお、300人教室は固定席、180人教室は可動席とする予定です。

180人教室レイアウト

180人教室(実験デモ対応)レイアウト

300人教室レイアウト

7. その他(基本計画より)

サイン計画

サイン計画

自然エネルギー計画

自然エネルギー計画